



今泉 茜俐 (いまいずみ あかり) 大和田小 5年生

作品名：わたしはわたし

図 書：てんからどどん

私は、友達がうらやましい。その子は、勉強が得意で成績もよく、スポーツも得意です。一方、私は勉強も得意ではなく、スポーツはほとんど上手に出来ません。そんな私にとって、外見も性格も正反対の女の子二人が入れかわるという物語はとても魅力的で、この「てんからどどん」という本を手に取りました。

この本は、さっぱりとした性格でクラスの中心的存在の高倉かりんと、おとなしくて真面目でいつも一人ぼっちの今井莉子という二人の女の子の物語です。かりんは、友達から無神経さを注意され一人になりたくて、莉子のことがちょっとだけうらやましく思い、莉子は、明るくてかわいかりんをうらやましく思っていました。そんな二人が同じエレベーターに乗り合わせたら、雷が落ちて、電気が消え、再び電気がつくとかりんと莉子が入れかわってしまいました。

入れかわった二人は、他人の目から見ることでお互いのいいところや悪いところがわかり、自分を変えようと努力していました。

ある時、莉子のしたある事が原因で、二人はとても危ない目にあってしまいます。しかし、責任を感じた莉子は、友達を助けようと勇気を出してかりんを助けたのです。

莉子は、自分がかわいくないとっていて、自分を磨きもしませんでした。しかし、かりんと入れ替わることで、他人から見た自分というのがわかり、自分の欠けているところが分かったのだと思います。莉子は、かりんが毎日しっかりしていた家事を頑張り、かりんは、莉子が得意としていた勉強を頑張りました。頑張って自分を変えようと努力してきたため、勇気を出せたのです。今までの莉子だったら、きっと後ろで見ていただけだったと思います。私だったら、勇気がないから一歩を踏み出すことが出来ないと思います。私も莉子のように友達を助けることになったら、勇気を出して、一歩を踏み出してみたいです。

私は、どちらかというと莉子に似ていると思います。勉強、勉強と言って家事をあまり手伝うことがありません。また、外で遊ぶのがあまり好きではありません。目標を立てても、もうだめだ、とすぐあきらめてしまっていました。そのため、私も莉子みたいに、かりんのようなクラスの中心的存在で、

スポーツも得意な人になりたいと思っていました。しかし、この本を読んで、入れかわるだけでは何も変わらない、努力して初めて変わることが出来ると気づきました。私は、自分の欠けているところが分かりました。努力することです。私は、自分の欠けている努力をしていきたいと思います。

私がこの本を読んで、とても心に残った言葉があります。
「そうだ、ひとにどう思われるかより、わたしはわたしだ。」
という言葉です。

今までは、そこまで深く考えていなかった「わたし」というもの、私だけが持っているものの大切さを知ることができました。
私は、「わたし」というものの大切さを、ずっと忘れずにいたいと思います。